

(障がい者の日常的口腔ケア、初期治療、予防、健康相談など)②地域の病院が担う分野【1.5次医療】(全身麻酔、鎮静法などの全身管理による管理が必要な患者)③広域をカバーする専門医療の分野【2次医療・救急医療】(機能訓練、困難な歯科治療、困難な行動調整、障がいに対する専門的知識が必要な治療や全身管理、入院が必要等)に分かれています。

障がいのある方の口腔機能の管理

まずは日々のケアで口腔内の健康状態を保つためには、「セルフケアの習慣化」と「介助みがき」を合わせて行うことが大切です。また、歯ブラシは、持ち手を太く、長く持ちやすくする等、その人にあったものを選ぶこと。毛先を優しく歯と歯ぐきの境目にあて小刻みに軽い力で動かすことも大事です。介助みがきをしようとしても、いやな記憶や感覚過敏などの理由から、歯みがきが拒否されてしまうことがあります。このような恐怖心・緊張状態を少しずつ和らげていくことを「脱感作(だつかんさ)」といいます。

脱感作の基本

①相手をリラックスさせ、心地よい雰囲気を作る(優しい声かけ、安全な姿勢の確保)②体の遠いところから順に触れる(例:手→腕→肩→頬→口)

介助みがきの基本

①みがく前に口のまわりや中を確認する②みがくときは声をかける③安全な姿勢で実施する

介助みがきの姿勢

①身体や頭部が安定し、かつ緊張が出にくい姿勢②口の中がよく見える姿勢③急な動きがあっても対応できる姿勢

(1)対面みがき(座位・立位)(2)座位後方抱え込みみがき(3)寝かせみがき等

家庭ケアの優先順位(迷った時の“順番”)

①安全が最優先②まずは“短時間で終わる”③できた所で“成功のまま終わる”④ほめて次につなげる(成功体験)⑤“慣れる習慣”を先に入れる(脱感作)

「家庭ケア」は“きれいにする競技”ではなくて、“続ける仕組み作り”です。「毎日100点より30点でも毎日」の繰り返し。無理なことは専門家にまかせて、家族が倒れない形が正解です。

また、身体的特性に基づいた医学的管理として、行動調整(心理学的手法)(薬物投与)を行うこともあります。治療が難しい時の選択肢として(鎮静、全身麻酔)で行動調整を選択したほうが安全な場合もあります。薬は“最後の手段”というより、「安全にトラウマを残さず治療するための選択肢」です。大事な

は“どれがいい”ではなくて、「その人にとって安全で負担が少ない道」です。

最後に、その人の“苦手”を減らして、“できる”を増やすことを目標に口腔ケアを継続してください。とお話されました。



【2月度会員向け学習会風景】

☆祝☆ 新成人・還暦 を迎えた 大阪市手をつなぐ育成会の会員の皆様のご紹介

今年、新成人となられた皆様、還暦を迎えられた皆様おめでとうございます!

“新成人となられた皆様は、これから新しいことにたくさんチャレンジしてください”

“還暦を迎えられた皆様は、これからも健康に気をつけて元気にお過ごしください”

大阪市手をつなぐ育成会会員の皆様をご家族やご本人からのメッセージを添えてご紹介します。

☆祝☆～新成人～

生活介護西作業所 寺岡 藍宙 さん

「いつまでも 笑顔で!!」



生活介護西作業所 安田 史穂 さん

「20歳おめでとう!これからの長い人生笑顔いっぱい
で史穂ちゃんらしく過ごしてほしいです」



個人会員 谷 春奈 さん

港第二育成園 湯川 創梓 さん

港育成園 中口 浩輝 さん